

麗気烈風

令和4年2月9日(水)

文責 村田和人

～ 教育は「共育」「協育」「強育」で ～

～ 【 啐啄同時(そったくどうじ) 】 ～

まん延防止措置期間が1月29日(土)～2月13日(日)となり、全部活動の練習が原則禁止になっています。部活動が生活リズムの一部となっている生徒は、最初のうちは戸惑っていたかもしれませんが、最近はむしろ部活動のない生活というものに慣れてきた頃ではないでしょうか。帰宅して一眠りして、夕食とお風呂を済ませたら、テレビ、スマホ、ゲームで一日が終わる。そんな生活パターンになっている生徒もきっと多いはずですよ。

しかし部活動指導者の視点から見ると、「また最初から練習しなさい。」と思います。基本練習から再度スタート。それに毎日続く「食っちゃあ寝る。」の生活で、筋肉が落ちて、部活が再開したらケガが多発するかもしれないと心配しています。このままでは4月の選手権に間に合わない、と指導者全員の焦りが徐々に募っています。いつになったら元の生活ペースに戻れるのでしょうか。もう本当にうんざりですね。



さて部活動がない放課後の時間を有効利用して、2年部では放課後の勉強会が行われています。受験用問題集を購入したので、それを使っての勉強会です。教室の様子を見に行ったら、それぞれの教室で7～8人の生徒が問題集を解いたり、熱心に先生に質問したりしていました。自主的に参加している生徒達ということでした。

先生と一緒に勉強に励んでいる生徒を見てみると「啐啄同時(そったくどうじ)」という言葉思い出しました。意味は、鳥の雛(ひな)が卵から出ようと鳴く声と母鳥が外から殻をつつくのが同時であるという意から、学ぼうとする者と教え導く者の息が合って、相通じることです。

「啐啄同時」は学習の基本です。教える方が毎日遅くまで残り、ICTや教材をどれだけ準備しても、それを受け取る方に学ぼうとする意欲、姿勢がなければ、それがどんなにすばらしい授業であっても空振りに終わります。

3年生は今受験シーズン真っ只中。2年生はそんな先輩方の姿を見て、そして学年の先生方がせっかく個別指導の時間をとってくれたので、これを機会に受験勉強を始めればいいのに。とてももったいないと思います。

勉強なんてこれだ！という方法はありません。俺は、私は勉強したいけど、勉強の方法が分からないからしない、という生徒がいます。そうした考え

を持っている生徒は「勉強の方法が分かった。よし、今日からバリバリ頑張ろう！」という日がいつか来るだろうとイメージしているのかもしれませんが。

しかし残念なことにそんな日は来ません、永遠に。

勉強を避けたがる生徒のもう一つの考えは、「何のために勉強するのか分からない。」だから勉強しない、という生徒です。

私もこれまでたくさんの生徒と出会い、担任もしてきました。そんな生徒の中に「中学生の時にもっと勉強しておけばよかった。」という生徒はたくさんいますが、「勉強して損した。」という生徒はたった一人の生徒もいません。ということは、勉強ってやはりすべきものなのです。これは間違いない事実だと思います。

生徒の皆さん、特に1,2年生。この人は勉強が得意！という人に「なぜ勉強するの？」と聞いてみてください。おそらく「なんとなく。」とか「しなきゃいけないから。」みたいなぼんやりした答えしか返ってこないと思います。勉強は歯磨きと同じなのです。やらなきゃ気持ち悪い。そんなものなのです。そんな理由で十分です。

勉強なんて、と思っている生徒の皆さん。ブツブツ理屈をこねくり返す前に、数学か理科か、何でもいので、問題に当たってみてください。分からない時は分かるまで調べたり、先生に聞いたりする。分からない問題が分かるようになった瞬間、

心の中に立ち込めていた霧が、さーっと晴れていくような、爽快感、達成感を経験します。この経験

をした生徒は、それじゃあ次の問題、教科に行ってみよう！というリズムをつくるようになります。こうした経験が不可欠なのです。

勉強は水泳を学ぶのに似ています。畳の上で泳ぎ方をどれほど学んでも水に入ったら泳げません。勉強も、学び方を考えていたり、何のためにと目的を考えていたりしても、いつまでも始めることはできません。とりあえず、目の前の問題にあたる！分かるまで取り組む！それだけです。部活のない今こそ、進級に備えて準備に入るいいタイミングかもしれません。

